

# 「ソフトウェア開発におけるユーザビリティ」 の現状調査

文化科学研究科・メディア社会文化専攻 林 海福

# 「ソフトウェア開発におけるユーザビリティ」 の現状調査

文化科学研究科・メディア社会文化専攻 林 海福

## 調査目的：

この訪問調査では、中国におけるユーザビリティの現状を把握し、日中におけるユーザビリティの発展について、学生たちとディスカッションを行うことを目的としました。

Sino-European Usability Center(SEUC) は、2000年に中国で初めてのユーザビリティ研究センターとして創設されました。この研究センターは、欧盟第五機構企画であり、中国政府中欧科学技術連盟および欧盟Asia-ITC企画によって創設され、約20カ国がメンバーとなっている欧米ユーザビリティネット(Usability Net)の一組織となっています。



## 実施内容：

調査期間中に、Sino-European Usability Center(SEUC)で行った活動は、次の通りでした。

- ・劉教授による中国におけるユーザビリティの現状の紹介
- ・「ペーパープロトタイプング手法」の発表および学生とのディスカッション
- ・ユーザビリティの学習現場と実験ラボの見学

中国では、ユーザビリティの分野は最近から注目されはじめ、科学技術の進歩につれ、ユーザビリティへの認識が高まっています。中国では、ユーザビリティに関する資料は、欧米に関する情報が主流であり、日本におけるユーザビリティの現状はまだ知られていません。



## 実施成果：

本調査を行うことによって得られた成果としては、中国におけるユーザビリティ手法とユーザビリティ教育の現状が把握できたことにあります。

技術の進歩に従い、中国は世界最大のIT市場と製造国になることが予想されます。そのような状況のなか、IT産業を支えるユーザビリティ専門家が不足していることは大きな問題となっています。今後は中国のユーザビリティ専門家育成の課題について、さらなる調査を進めていきたいと思ひます。